

名前：

私は後者の「これから、新聞や雑誌は必要だ」という意見に賛成だ。現在、私達はパソコンや携帯電話を利用し、好きな時に好きな所で欲しい情報を得ることが出来る。インターネットで得る情報は誰にでも分かりやすいように、カテゴリーで簡潔にまとめられている。このような便利さ、手軽さから、インターネットは広く普及し、人々の生活に欠かせない存在となり、今や新聞や雑誌が不必要であると感じる人が少なからずいるだろう。

しかし、私はこの状況に危機感を抱いている。まず、人々が情報を積極的に取り入れようとしなくても手に入るのが当然となることで、人々は与えられた情報をそしやくせずに鵜呑みする傾向になってしまふ。これは単に人々の読解力の低下を意味するだけでなく、受動的な姿勢が浸透することにより、誤った情報に惑わされてしまふ、という危険を示す。確かに新聞や雑誌が100%正しい事実を載せているとは限らないし、インターネットの

情報に誤り、たものが多いとは言切れないが、インターネットという匿名のメディアが流す情報の有用性を検討する力を人々は失っており、これはいけないと思う。

次に、新聞や雑誌と離れることは活字離れを伴いかねない。私も読書が好きな方ではななく、活字に対して少々苦手意識を持っているが、古くからの文学作品などは、ドラマ化・映画化されても、やはり原作より伝わってくるものに欠けると思う。

更に、インターネットを利用できる人は、やはりこの世に在るわけではない。パソコンを利用できない老人やインターネットが普及していない地域に住む人々はやはり新聞や雑誌に頼っている。新聞や雑誌が無くなると、これらの人々とインターネットを利用できる人々との間の情報格差が広まってしまふ。

これらの理由により、私は「インターネットが普及した現在も、雑誌・新聞は必要だ」と考える。

1800字